

＜考え方・ねらい＞

- 様々な旅行形態の創出につながる取り組みをはじめ、最先端技術の活用などを図りながら生活の質（QOL：Quality Of Life）を更に高める技術の創出や質の高い空間・サービスを体験できる滞在環境を 2025 年の万博開催のムーブメントを活かして推進
 - ・健康をテーマに掲げ、夢洲での開催をめざす 2025 年万博の機運とも連動しながら、ライフサイエンス産業などの最先端技術やサービス等を体験できる取り組みを進める。

＜取り組みの方向性＞

1. 関西のライフサイエンス産業と連携した ニューツーリズム（メディカル・スポーツ等）拠点の形成

○大阪・関西におけるライフサイエンス産業やその研究機関の集積や舞洲においてスポーツ・レクリエーション機能が集積するポテンシャルを活かし、メディカル、スポーツ、フードなどをテーマに、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態（ニューツーリズム[※]）を創出する。

※ニューツーリズム：地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態（施設イメージ例）

ウェルネスツーリズム、医療ツーリズム、スポーツツーリズム等につながるクリニック、診断、研修機能や、トレーニング、リハビリ機能をもったスポーツ施設

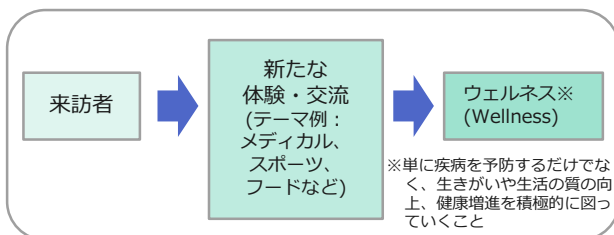


図 ニューツーリズムによる効果のイメージ



図 メディカル、スポーツなどのニューツーリズムの展開イメージ⁵⁵

○MICE やエンターテインメントとの相乗効果のある高付加価値サービスを提供し、再訪や長期滞在につながる。

（取り組み例）

- ・MICE の展示会や国際的エンターテインメント（スポーツイベント等）の来訪者に対して、携帯端末等を活用した解説や見所の映像発信、夢洲内における他施設の情報を提供
- ・こころと体の健康を求める顧客層などに向けたきめ細かな診断やアドバイス、個々人に対応したトレーニング等の提供

○日本のみならず、今後世界的に重要な関心事項となりうる健康をキーワードに、世界が抱える課題への解決案として「アクティブライフ」を提示し、夢洲発のオリジナリティあるツーリズムを展開する。

⁵⁵ 出典：https://pixabay.com/ja/

2. 生活の質（QOL）を高める最先端技術の体験の場を創出

○健康維持増進等の「生活の質（QOL）」の向上に繋がるライフサイエンス産業など、大阪に集積する研究・開発機関の研究成果等を夢洲の各施設において実証・実践し、その実証結果のフィードバックによる更なる技術革新を図る。



○万博後においても、その理念も継承しながら、引き続き、ライフサイエンスやその他関連産業の技術・研究の体験の場の創出や情報発信の拠点化を図る。

図 生活の質（QOL）を高める最先端技術の実証・実践イメージ⁵⁶

3. 非日常を感じることができる滞在環境を最先端技術等の活用により創出 （多様なニーズの宿泊、長期滞在等へ対応）

○最先端技術を随所に活用した快適で利便性の高い空間・施設整備を行い、質の高いサービス・非日常的な空間を享受できる滞在環境を創出する。

○宿泊機能、長期滞在機能は、ビジネス、ファミリーなど、多様なニーズに対応する施設を導入する。（導入例）

- ・リゾートにふさわしいハイグレードホテルや高級ヴィラ等のホテル
- ・日本らしいおもてなし・サービスを受けることができる旅館
- ・長期での滞在が可能なコンドミニアムやサービスアパートメント等とその滞在をサポートするサービスなど
- ・ニューツーリズムと連携したクリニック・トレーニング施設等を併設した長期滞在施設

○国内外から観光や余暇、コンベンションなどで訪れる来訪者が心安らく上質なリゾートを体験できる、都心部にはない滞在環境を創出する。（スパ・温泉、保養施設など）



日本旅館（イメージ）⁵⁷



非日常的な滞在環境（イメージ）⁵⁸



ハイグレードホテル（イメージ）⁵⁹

図 多様なニーズに対応する宿泊機能イメージ

⁵⁶ 出典：https://pixabay.com/ja/

⁵⁷ 出典：https://pixabay.com/ja/

⁵⁸ 出典：日建設計

⁵⁹ 出典：Aman Tokyo ホームページ

06 夢洲がつなぐネットワーク

NETWORK ▶

大阪・関西の活力と広域的な 相乗効果を生み出すネットワーク

<考え方・ねらい>

- **新たに国際観光拠点を形成する効果を臨海部～西日本と広く波及させ、関西・西日本全体の活性化につなげる**
 - ・ 国際観光拠点の形成に向けて3つの都市機能を集積させることにより、夢洲のみならず、それらの相乗効果や波及効果を臨海部～西日本と広く波及させ、関西・西日本全体の活性化につなげる
- **関西の様々なエリアの魅力ある情報や英知に富んだ技術などを結集**
 - ・ 大阪市域に限らず、関西圏（大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県）の情報や技術を結集させ、魅力的な国際観光拠点を形成する。

<取り組みの方向性>

1. 臨海部：連携強化による臨海部全体の魅力向上

- 次世代の成長をけん引する新たな機能導入にあたり、観光施設及び物流施設のそれぞれが最大限に機能を発揮できるゾーニングにより、臨海部全体のポテンシャルや魅力の向上をめざす。
- 適切な輸送能力を持つ鉄道整備や快適なアクセス道路の整備などにより、臨海部のアクセス強化を図り、臨海部に立地する集客施設（天保山・築港、USJ など）間での回遊性の向上や、更なる集客を図る。
- 新エネルギーなどの研究開発機能（咲洲など）の実証の場、ショーケースの場としての役割を担う。
- 舞洲（スポーツアイランド）や、咲洲（宿泊・大学等）の各機能や施設との連携（既存施設と連携したアクティブライフプログラムの実施や施設の魅力発信など）により、施設の利用を促進するとともに、滞在目的の多様化、滞在期間の長期化など、臨海部全体の活性化をめざす。

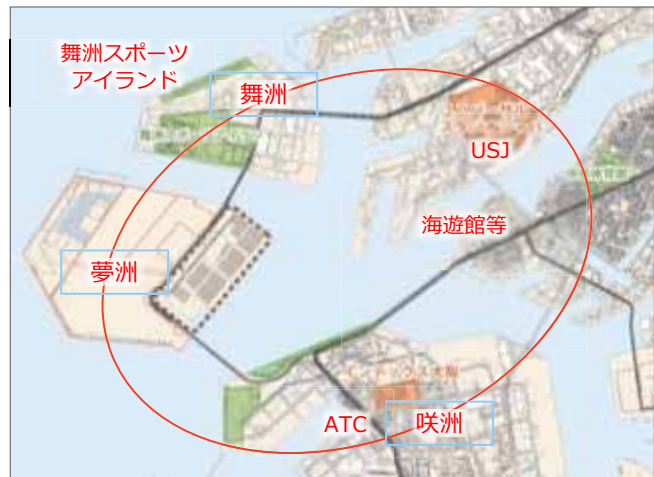


図 臨海部におけるネットワークイメージ

2. 大阪 : 都心との連携強化による魅力・国際競争力の向上

○都心部では、うめきた、中之島・御堂筋、ミナミなど、国際的ビジネス・商業機能、文化・学術機能、観光・MICE機能が展開されており、都心部と臨海部が両輪となって大阪全体の魅力・国際競争力を向上していく。

・例えば、MICEに関連したアフターコンベンションやインセンティブツアー、クルーズ参加者や団体旅行者に対するオプションツアーや日帰り観光プログラムなど、夢洲と大阪の資源を結びつける取り組みによる連携強化を図る。

○中之島、大阪城公園など、水でつながる大阪の各拠点との連携が生み出す水都大阪らしい新たな可能性を創出する。



図 都心と臨海部の連携強化による国際競争力の向上

3. 関西 : 臨海部が新たな拠点として関西の活力をけん引

○拠点形成のための都市機能（生活の質（QOL）を高める最先端技術の体験の場、メディカル、スポーツ等のニューツーリズム）や、夢洲のまちづくりやそれを支えるしくみ（環境共生、安全・安心）に対し、関西の英知に富んだ技術を結集し、活用することで、関西に拠点を置く研究機関等の連携強化と更なるイノベーションを創出する。

○特区制度の活用等により、環境・新エネルギー分野、ライフサイエンス分野等、関西の成長に資する幅広い分野でのイノベーションとつなげ、関西の活力をけん引する。

○様々な媒体・言語のコミュニケーションツールにより関西の様々な魅力ある情報を発信し、夢洲および関西への訴求力を高めるとともに、コンシェルジュの配備など、来訪者の快適な夢洲滞在や大阪・関西回遊を支援するしくみの整備に努める。

○大阪府域や関西一円に豊富な観光資源や世界遺産^(※)が集積しており、伝統芸能等を体感・発信できる機能などの導入により、海外や国内からの来訪者の関心をひきつけ、関西の他地域への次なる訪問につなげる。

(※) 関西には、「法隆寺地域の仏教建造物」「姫路城」、「古都京都の文化財」「古都奈良の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」5つの世界遺産が存在し、更に、大阪府等関係自治体は、「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録に向けた取り組みを進めている。

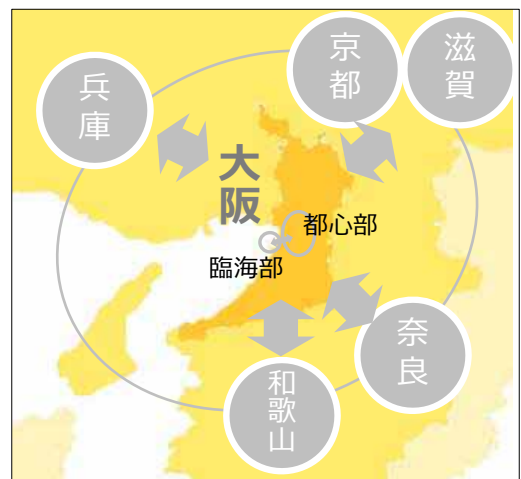


図 関西各地の活力をけん引

4. 西日本：臨海部が関西と瀬戸内をつなぎ、相乗効果を誘発

- 瀬戸内は、穏やかな海と多くの島々からなる日本有数の自然景観を有し、瀬戸内クルーズや芸術祭など世界から人を集める潜在能力が高いエリアである。この潜在能力を活かし、関西圏との連携の歴史と伝統を更に発展させ、関西・西日本の活性化につなげる。
- 臨海部、西日本エリアの魅力発信・向上を図る取り組みを行うことで、より広い範囲での経済波及や交流人口の拡大等の相乗効果を誘発する。
- 西日本が有する魅力ある多彩な情報や英知に富んだ技術などを結集し、連携を図るなど、西日本全体に及ぼす効果を念頭に置き、取り組みを進める。



図 瀬戸内との連携イメージ⁶⁰

⁶⁰ 出典：夢洲まちづくり構想（案）～中間とりまとめ～（平成27年2月／夢洲まちづくり構想検討会）

07 まちづくりの方針

土地利用

▶ 世界で存在感を発揮するまちづくり

<考え方・ねらい>

- **夢洲は、埋立途上であるため、短期～長期的な視点でのまちの将来像を見据えたゾーニング・土地利用を行う**
 - ・ 東側（物流）、西側（グリーンテラス（オープンスペース）、中央部（観光・産業）のゾーニング・土地利用を想定し、中央部は北側区域から南側区域へ埋立による土地造成の進捗に合わせた整備を行い、まちの将来像の実現を段階的に図る。
- **整備段階ごとに導入される機能が、相互に機能的・空間的に連携することで、まちの価値を連鎖的に高め、夢洲のコンセプトである「SMART RESORT CITY」を実現する**
 - ・ 第1期エリア（統合型リゾート（IR）を中心とした整備）から、埋立による土地造成の進捗に合わせて拡張するエリアに導入される機能が、相互に連携し、まちの価値を持続的に高めるまちづくりをめざす。

<取り組みの方向性>

1. 魅力ある拠点形成を可能とするゾーニング

- 夢洲東部は、既に国際物流拠点として機能しており、引き続き「物流ゾーン」「産業・物流ゾーン」として、高付加価値物流機能等を備えた物流機能等の確保を図る。
- 夢洲中央部は、「観光・産業ゾーン」と位置づけ、世界中の人が訪れてみたいと憧れるエンターテインメント機能やレクリエーション機能を中心に先進技術等が体験できる空間の創出など産業振興に資する機能も導入する等、新たな国際観光拠点の形成を図る。
- 夢洲西部は、廃棄物処分地としての活用後は、「グリーンテラスゾーン」として、みどりあふれるオープンスペースや親水空間を形成し、中央部で展開されるエンターテインメント機能等と連携する機能を導入するなど、中央部と一体感のある国際観光拠点の形成を図る。



図 ゾーニング計画

- 隣接するゾーン間や土地造成の進捗に伴うゾーンの拡張にあたってのインフラ整備や建築物などの施設配置などは、機能性や空間的な連続性などに配慮する。

2. 駅を中心に展開する土地利用とまちの骨格の形成

- 鉄道駅の駅前には、にぎわいの創出、人の交流、憩いの場として活用できる空間（駅前広場）を設け、広場と隣接する建築物等が一体となり、夢洲の玄関口にふさわしい空間を形成する。
- 鉄道駅を中心に、夢洲全体のにぎわいを展開するとともに、まちなみの連続性を確保するよう、道路や広場などの都市施設や建築物等を配置した土地利用とする。
- 夢洲外縁には憩いの場となる親水空間（水辺軸）を整備し、また、鉄道駅から夢洲外縁に向けた開放的な眺望を有した軸線（水とみどりなどで構成された居心地の良いうるおい軸）を設けることにより、人・水・みどりをネットワークするまちの骨格を形成する。

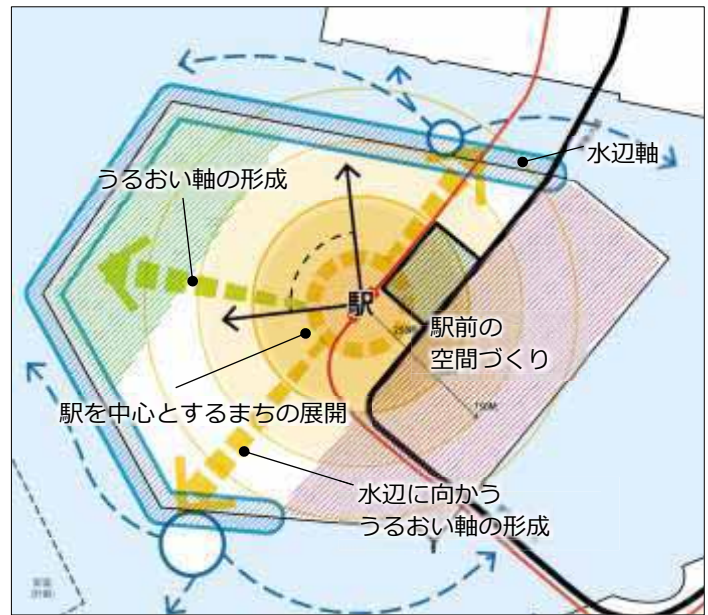


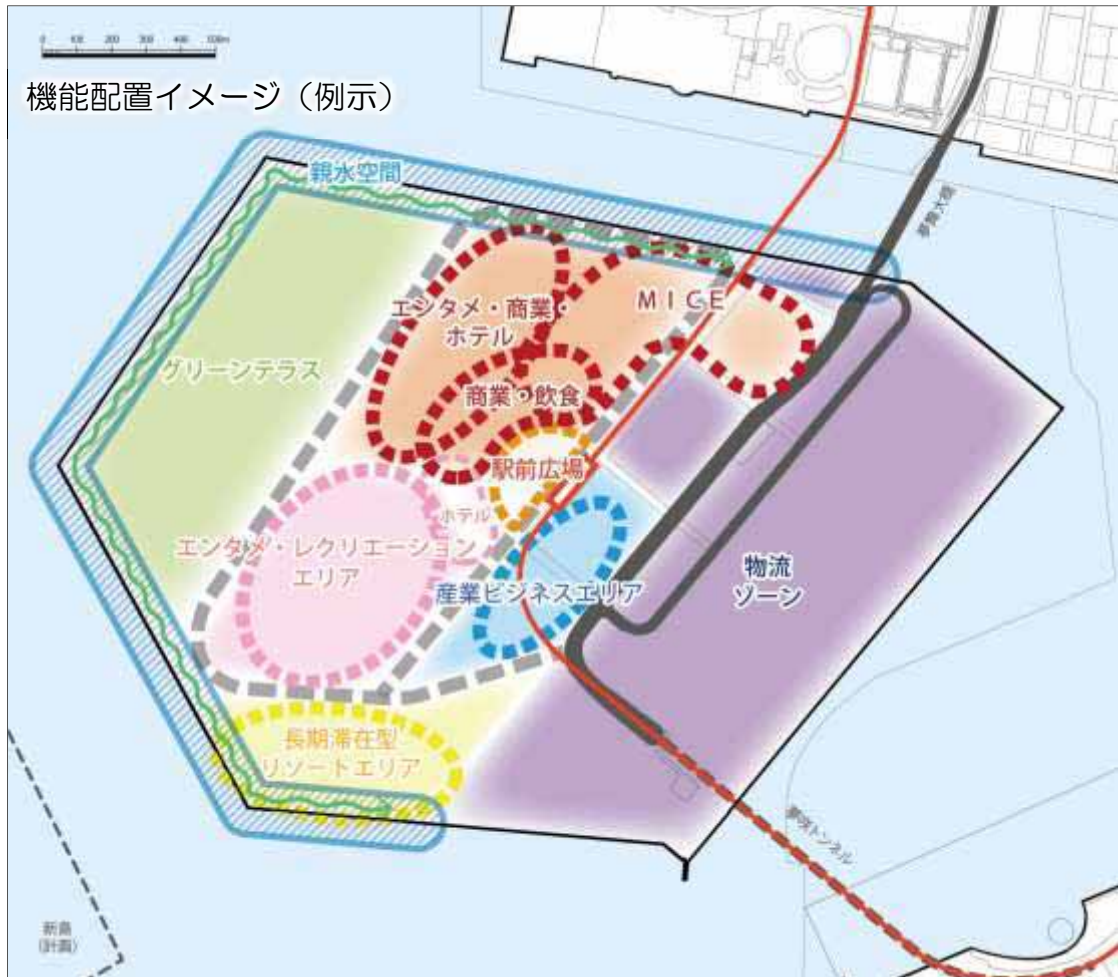
図 まちの骨格の整備

3. 段階ごとにまちの価値を高める土地利用（機能配置）

- まちの価値を連鎖的に高めるため、統合型リゾート（IR）の導入を視野に入れつつ、埋立による土地造成の進捗にあわせ、夢洲中央部北側区域から中央部南側区域へ、国際観光拠点の整備を段階的に進める。
- 第1期整備（約70ヘクタール）：
北側区域（鉄道駅より北側）
統合型リゾート（IR）を核として、オールインワンのMICE施設や、エンターテインメント施設、商業・飲食施設などを整備する。
- 第2期整備（約60ヘクタール）：
中央区域（鉄道駅より南側）
万博開催後の用地において、第1期に導入されたエンターテインメント機能の拡充やレクリエーション機能の導入とこれらの施設による集客と大阪が強みを有する最先端技術の実証・実践の取り組みとの相乗効果を生み出す産業・ビジネス機能やその関連機能を導入する。
- 第3期整備（約40ヘクタール）：南側区域
最先端技術の活用により生活の質（QOL）を高め、非日常空間を感じられる長期滞在者用の機能やその関連機能を配置する。



図 段階的な土地利用



機能配置イメージ（例示）

駅を中心にエンターテインメント、レクリエーション、産業ビジネス機能等を配置

図 機能配置イメージ（例示）

＜考え方・ねらい＞

● 国際観光拠点の形成、最先端産業・物流の集積を支える都市基盤

- ・ 夢洲ではすでに高規格コンテナターミナルをはじめとする物流施設の集積が進んでおり、今後、夢洲において国際観光拠点と国際物流拠点が共存し、それぞれが十分な機能を発揮するためには、円滑な交通アクセスを確保することが必要不可欠である。
- ・ 観光・産業・物流の機能を支える鉄道や道路、舟運などによる多彩なアクセスや夢洲内の円滑な移動を実現する交通システムの導入などを最先端技術等を用いて実現する。

＜取り組みの方向性＞

1. 適切な輸送能力を持つ鉄道網の整備による臨海部のアクセス強化

○ 港湾機能や観光拠点機能などを支え、適切な輸送能力を持つ鉄道網を整備し、交通負荷の分散により周辺道路網などに与える影響の軽減を図る。

○ 関西国際空港や新大阪駅等からの鉄道によるアクセス機能を導入し、夢洲のポテンシャルを高める。

○ 夢洲駅を中心とし、北ルート（京阪中之島線延伸・JR桜島線延伸）と南ルート（地下鉄中央線延伸）の2方向による鉄道ルートが考えられ、夢洲の段階的な土地利用の状況に応じた鉄道整備を検討する。



図 鉄道アクセス⁶¹

⁶¹ 出典：夢洲まちづくり構想(案)～中間とりまとめ～(平成27年2月/夢洲まちづくり構想検討会)

2. 魅力あるまちへの快適な道路アクセス

- 夢洲周辺には、阪神高速道路湾岸線舞洲ランプがあり、高速道路ネットワークで近畿圏各地と結節している。
- 高速道路ネットワークについては、広域的には淀川左岸線の整備等により、より充実したネットワークの形成が図られる。
- 夢洲へのアクセス道路は、既存の舞洲及び咲洲からの2ルートの基本とする。
- 阪神高速道路湾岸線の舞洲ランプから夢洲へのルート上にある此花大橋や夢舞大橋の車線数を増やし、現有道路機能を強化する。
- 夢洲内の観光ゾーンへの動線は、幹線道路の拡幅、高架道路の整備などにより、物流関連の動線との分離を図る。ソフト・ハードを含め総合的な交通施策を講じることにより、円滑な交通アクセスの維持に努める。

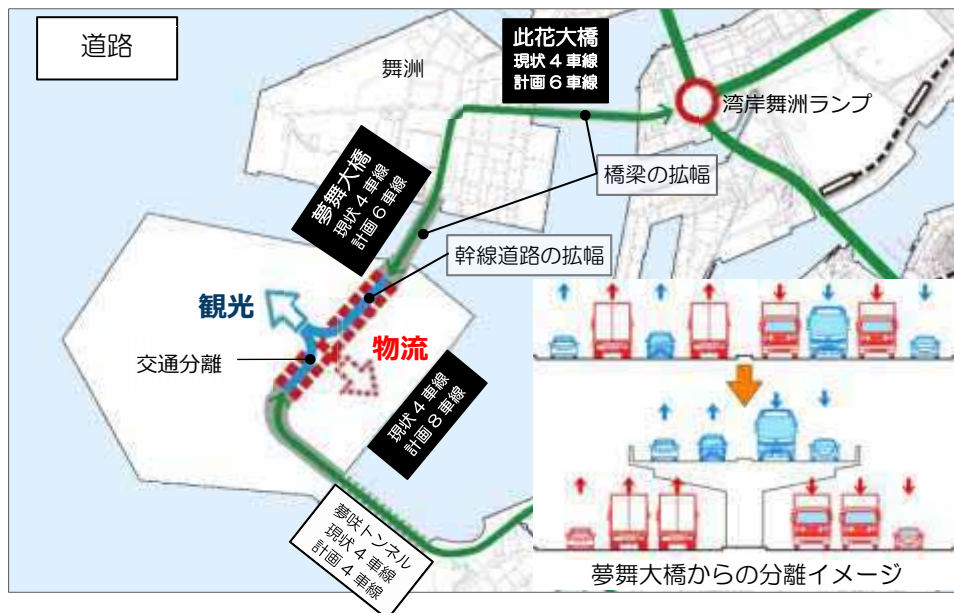


図 道路アクセス



図 観光車両と物流車両の分離（イメージ）

3. 多様な交通アクセスによる魅力あるまちへのアプローチ

- 鉄道・道路に加えて、海上アクセスや航空アクセス（ヘリコプター等）など多様なアプローチを想定する。
- 水都大阪にふさわしい魅力ある観光拠点として、夢洲の立地を活かし、国内外と結ぶクルーズ客船や近傍の集客施設とを結ぶ小型客船など、船によるアクセスを想定する。
- 水上交通と連携して、大阪全体の水の回廊（水上交通網）の拡充を図る。
- 航空アクセスは、舞洲ヘリポートなど既存アクセスポイントの活用も想定する。



ヘリコプター



海上アクセス

図 夢洲への多様な交通アプローチ
(イメージ)⁶²

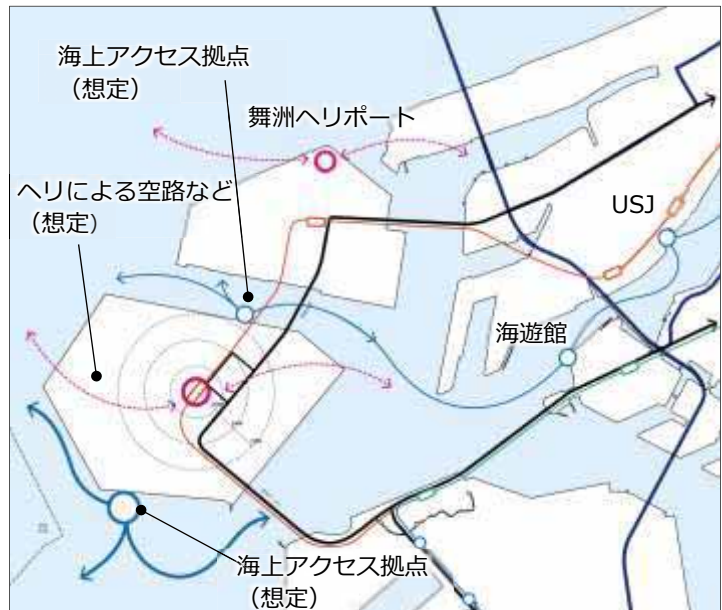


図 夢洲の海上、航空アクセスのイメージ

4. リゾート地にふさわしい魅力ある域内道路

- 観光外周道路は、適切な車線数を確保しつつ、リゾートにふさわしい道路形状とし、土地利用に配慮しながら段階整備ごとの外縁部に配置。また、道路空間を利用したイベントなどの活用も想定する。
- 観光外周道路の歩道には、街路樹とオープンスペースによる緑陰モールを形成し、ゆとりある歩行者空間を確保するとともに、サイクリングロードやジョギングロード等を設けるなど、多様なニーズに対応する空間形成を図る。
- 観光外周道路の整備にあたっては、次期の拡張（土地利用）も視野に入れ、必要に応じて土地利用の連続性・一体性の確保に配慮する。

(検討例)

- ・掘割道路の整備や歩行者専用道への変更など

⁶² 出典： <https://www.flickr.com>

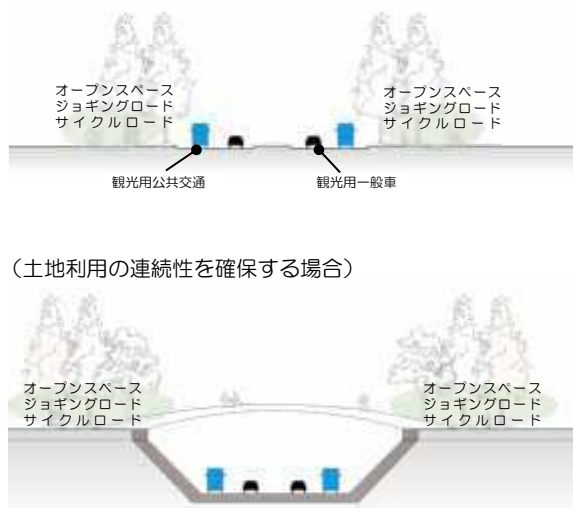


図 観光外周道路の断面イメージ



図 観光外周道路の整備

- 観光エリア内の道路については必要最小限の整備とし、スーパーブロックによる土地利用を可能とするとともに、できる限り車両を観光外周道路へ誘導することで歩行者中心の道路計画となるよう配慮する。
- 観光エリア内の歩道には、水・みどりやオープンスペース等を適切に配置し、イベントなどの活用も想定した歩行者が非日常を感じられる道路空間の形成を図る。
- 域内道路（観光外周道路及び観光エリア内の道路）では電線類を地中化するなど、道路空間の安全性や快適性の確保及び街路樹やオープンスペースと調和した良質な景観の形成を図る。
- 域内公共交通が優先的に走行できるトランジットモール（優先レーンや優先駐車場など）とすることなどを検討する。
- 歩行者空間については、沿道へのにぎわい施設の顔づくりやアートの設置などにより、歩く距離を感じさせない楽しく快適な環境を形成する。

5. 快適な夢洲内移動を可能とする交通システムの導入と

回遊性が向上する駅前広場の配置

- 夢洲内の循環交通として、適切な輸送量を確保できる交通システム、観光エリア内には歩行者と共存可能な交通システムなど、地区全体の交通体系と観光エリア内の特性に合わせた夢洲内移動を支える交通システムを導入する。
- 誰もが利用でき、安全で利用しやすい交通システムを導入するとともに、非日常を感じるような交通システム（例：普段とは異なる眺望を楽しめるロープウェイやモノレール、水上交通（ラグーン）など）の導入を検討する。
- 夢洲内移動に係る交通システムのためのターミナル空間とイベントなどが開催できる交流・憩いの場となる広場空間とが一体となり、利用者の利便性が高く回遊性の向上が期待できる駅前広場を配置する。



適切な輸送量を確保できる交通システム（イメージ）⁶³



歩行者と共存可能な交通システム（イメージ）⁶⁴

図 交通システムイメージ

⁶³ 出典：https://www.flickr.com

⁶⁴ 出典：https://www.flickr.com



図 駅前広場のイメージ

6. スマートインフラによる多次元ネットワーク型都市基盤の構築

- 多様な都市機能と都市活動を支える基盤として、鉄道網の整備や公共交通駅を中心とした各公共交通を連結する駅前広場の形成などの空間的近接性を基本としたネットワークに加えて、ICT 基盤の積極的活用などによる交通・情報等のネットワーク化により、空間的近接性を超えて人・モノ・情報をつなぐ3次元的ネットワークの構築による未来型の都市基盤の構築をめざす。
- 通信ルートの多重化や有線・無線の多様化などにより、レジリエントで高速・大容量な ICT インフラ（通信環境）を幹線道路の下部などに構築する。

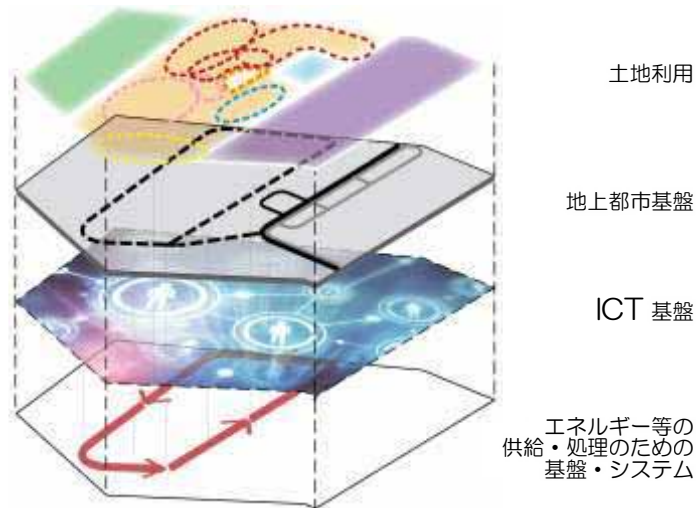


図 多次元ネットワーク型都市基盤の構築イメージ